



スペシャリスト はぐく
検査技師を 育む
広島赤十字・原爆病院
実地研修報告

研修目的

当検査センター血液部門における**スペシャリストの育成と血液部門の強化**のため、一昨年に続き平成19年10月29日から12月21日までの約2か月間、広島赤十字・原爆病院輸血部および検査部にて実地研修させていただきました。

検査科血液一般

岡崎 千枝(平成18年4月入職)

広島赤十字・原爆病院での研修は、病棟への検体回収、機械でのCBC測定、染色などが主な内容でした。研修期間中、骨髄穿刺、細胞性免疫検査、新生児の採血などの見学もさせていただきました。また、色々な症例に触れることもできました。特に印象に残ったのが以下のケースです。

私が研修に入る前に、当検査センターに検査ご依頼があった検体で白血病が疑われた患者様が、私の研修2日目に広島赤十字・原爆病院に来院され、AMLと診断されました。そのケースについて、診断から初回寛解導入療法による治療、そして退院までを時系列で追うことができたのです。

当検査センターでは、血液疾患が疑われた場合、できるだけ速やかにご依頼先へ報告する、というところで終わっていましたが、今回の研修の中で、患者様が退院されるまでの一連の流れを目の当たりに見ることができました。普段患者様と接する機会のない私にとって、患者様を身近に感じる事ができ、とても勉強になりました。

病棟入院中の血液疾患の患者様については、毎日CBC・血液像の検査を行い、マニュアルによる血液標本の作製から鏡検・白血球分類をすべて同一スタッフが行っていました。また患者様に対して、初診時、治療中(治療開始8日目と10日目)、治療後と最低4回骨髄穿刺を行い、治療方針を決めていきます。骨髄穿刺は特に、検査技師にとって患者様を直接把握できる場であり、技師一人一人が多くの情報(患者様の状態、骨髄液の性状、医師と患者様との会話の内容 etc.)を検査室へ持ち帰ることを強く意識していました。

今回私自ら標本を作成・鏡検し、骨髄穿刺にも同行させていただくことができました。病院スタッフは、毎日患者様の名前や標本を確認することで、患者様を常に意識する状態を保つようにされていました。標本の中に回復の兆しが見えたら、まるで自分のことのように喜んでいらっしかったです。骨髄穿刺時には、患者様の情報をできる限り収集し、他の検査技師と情報を共有していました。そういった中で私は、患者様の様子を常に把握した上で一つ一つ

の検査が進められていることを体感することができました。

冷静に検査を行う一方で、患者様の状態に一喜一憂する検査技師の方々の姿がとても印象に残っています。私も患者様のことを常に考えた検査技師でありたいと思いました。

血液検査の経験はまだまだ浅い私ですが、これから臨床検査をしていく上で、血液細胞の状態が正常か否かを正しく見極める力をつけること、血液データだけでなく得られる限りのデータから患者様の状態を把握すること、臨床の現場(医師、看護師、検査技師 etc.)とのコミュニケーションを図ることが必要だと強く感じてい



岡崎検査技師(筆者)

ます。今回の研修で得たことを検査センターの先輩や同僚と共有し、さらに次の世代へと伝えていくつもりです。

今回、研修期間中ご指導いただいた広島赤十字・原爆病院の土肥博雄院長先生をはじめ、市川技師長、楠木課長、川上係長、血液検査課スタッフである塔村技師、山下技師、伊藤技師、山崎技師他、検査室のスタッフの皆様方に深謝いたします。



広島赤十字・原爆病院

Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital

検査部技師長 市川 真一

この度、広島市医師会臨床検査センター様から二人目の研修となりますが、岡崎千枝さんに当院血液検査課で10月29日から12月21日までの7週間、私共のプログラムに沿った研修を受けていただきました。検査センターでの業務においては、患者様に直接接する機会がないと思いましたが、出来るだけ多く臨床の場に携わっていただけるような環境作りを心がけました。

研修内容は当院の日常業務の流れに加わっていただく形で、病棟での検体集配から、CBC測定、再検、染色等行ってもらいました。また、当院での骨髄穿刺検査は外来処置室あるいは病棟に出向いて行っています。ちなみに平成18年度の骨髄穿刺検査件数は1,704件に上っていますが、外来処置室では実際に患者様の病態を見て、検査室のスタッフに見てきたことを伝える役割も果たしていただきました。無菌室のある血液内科病棟では、いかに閉塞感のあるところで患者様が治療を受けているかを体感してもらいました。



市川技師長(向かって後列左)と
血液検査課スタッフのみなさん

当初、スタッフから岡崎さんはおとなしそうな印象だと聞いていましたが、日々研修が進む中、内に秘めた強い意志が感じられ、静かに、そして積極的に業務に取り組んでいる姿勢が非常に印象的でした。

研修内容など不十分な点多々あったかと思いますが、臨床検査技師として「患者様のために何が出来るか」を常に考え、共に実践して行きたいものです。最後に今回の研修で得たことを少しでも今後に役立てていただければ幸いです。